

# 平成30年度農作物有害動植物発生予察情報

## 発生予報第1号（4月）

平成30年4月10日  
山形県病害虫防除所

### [概要]

普通作物：4月の気象は高温で推移することが見込まれています。いねの育苗期間中の病害発生を防止するため、適正な温度管理、水管理に努めてください。また、生籾殻・稲わら等は、葉いもちの伝染源になるので、絶対に置床や育苗資材に使用しないとともに、育苗施設周辺に放置しないようにしましょう。

園芸作物：**果樹の生育は全般に早まっています。園内をよく観察し、果樹の生育に合わせて適期に防除を実施しましょう。また、前年りんご黒星病の多かった地域では防除を徹底しましょう。**

平成30年度発生予報第2号の発表は4月25日の予定です。

### 予報内容一覧

作物名	病虫害名	発生時期	発生量
いね	ばか苗病	—	平年並
	苗立枯病	—	平年並
	苗いもち・苗の葉いもち	—	—
	苗立枯細菌病・もみ枯細菌病	—	—
りんご	腐らん病	—	—
	モニリア病	—	—
	<b>黒星病</b>	—	<b>やや多い</b>
もも	<b>せん孔細菌病</b>	—	<b>やや多い</b>
日本なし	黒星病	—	平年並
おうとう	灰星病	早い	平年並
果樹共通害虫	ナミハダニ（り・も・な・お）	—	平年並
	ハマキムシ類（り・な・お）	—	—

（ ）内 り：りんご、も：もも、な：なし、お：おうとう

山形県病害虫防除所 本所	TEL 023-644-4241	FAX 023-644-4746
庄内支所	TEL 0235-78-3115	FAX 0235-64-2382
山形県病害虫防除所トップページ	<a href="http://agrin.jp/menu/t/790/">http://agrin.jp/menu/t/790/</a>	
病害虫発生予察情報	<a href="http://agrin.jp/menu/t/563/">http://agrin.jp/menu/t/563/</a>	

1. 農薬は、農林水産省登録番号のある登録農薬を必要量だけ計画的に購入する。
2. **農薬の使用にあたっては、登録内容（農薬使用基準）を遵守するとともに、隣接地や周辺作物へ飛散しないよう十分留意する。また、使用後は防除日誌の記帳に努める。**
3. 農薬の使用にあたっては、農薬使用者と養蜂家がお互いに連携をとりながら、農薬の使用によるみつばちへの危害を防止する。
4. 農薬は、鍵のかかる専用保管庫に保管し、適切に管理する。
5. 農薬の空容器や空袋等の処理は、廃棄物処理業者に処理を委託する等により適切に行う。

予報根拠中の記号            (+)：発生量を多くする要因    (-)：発生量を少なくする要因

## I 普通作物

### 1. いね

病 害 虫 名	予 報 内 容
	発 生 量
(1) ばか苗病	平年並

#### 1) 予報の根拠

向こう1か月の気温は、高いと予報されている。

#### 2) 防除上注意すべき事項

- ア. 浸種中の水温が15℃以上になると感染リスクが高くなるので、水温が上がりやすいハウス内や直射日光の当たる場所での浸種は避け、適正な水温で浸種する。
- イ. 催芽前に微生物農薬により種子消毒を行う場合は、十分な防除効果が得られるよう、処理方法及び使用上の注意事項に十分留意する。
- ウ. 催芽、出芽時及び育苗期間中は適正な温度管理、水管理を行う。
- エ. 発病苗は、本田への移植を防止するため、見つけしだい抜き取り適切に処分する。
- オ. 例年、ばか苗病が発生する育苗施設では、消毒用資材で消毒した育苗箱と育苗器を使用する。また、苗床資材として籾殻くん炭を使用しない。

病 害 虫 名	予 報 内 容
	発 生 量
(2) 苗立枯病 (リゾプス、フザリウム、 ピシウム、トリコデルマ)	平年並

#### 1) 予報の根拠

向こう1か月の気温は、高いと予報されている。

#### 2) 防除上注意すべき事項

- ア. 育苗器具、器材の水洗いを十分に行う。
- イ. 育苗培土のpHは5.0を目標に矯正する。
- ウ. 苗立枯病の発生を防止するため、育苗期間中は10℃以下の低温、25℃以上の高温にならないよう適正な温度管理を行う。
- エ. 健全な苗を育てるため、床土の水分には十分注意し、過不足のない水管理に努める。
- オ. 灌水や、薬液を灌注する場合は、苗の白化現象を防ぐため液温を20℃前後とする。
- カ. 微生物農薬で種子消毒を行った場合は、薬剤の選定に注意する。

(3) 苗いもち・苗の葉いもち

育苗期のいもち病の発生を防止するため、下記の事項に注意する。

- ア. 出芽時に覆土が不完全で糞が露出していると、苗いもちが発生しやすいので、ていねいに覆土する。
- イ. 生糞殻・稲わら等は、葉いもちの重要な伝染源になるので、絶対に置床や育苗資材に使用しない。また、育苗施設周辺にも放置しない。
- ウ. 育苗期に葉いもちが発生した場合は、本田での発生につながるのを見つけしだい適切に処分する。
- エ. QoI 剤耐性いもち病菌が県内全域で確認されているので、育苗箱施用薬剤の選定には留意する。
- オ. いねの育苗箱施用薬剤は、育苗箱から地面にこぼれ落ちた場合や、薬剤処理後の灌水等によって農薬の成分が土壌に残留し、後作で栽培した野菜等に吸収され適用外成分として検出されることがある。  
このため、いねの育苗終了後に野菜等を栽培する予定のハウス内には、育苗箱施用薬剤を処理した育苗箱を持ち込まない。また、育苗箱施用薬剤を処理する場合は、育苗箱をハウスから搬出した後に処理する。

(4) 苗立枯細菌病・もみ枯細菌病

育苗期の発生を防止するため、下記の事項に注意する。

- ア. これらの細菌病は、発病後の防除薬剤がない。例年発病の見られるところで効果のある種子消毒を行っていない場合は、播種前に床土・覆土に薬剤を混和処理するか、播種後覆土前に薬剤防除を行う。
- イ. 催芽、出芽時の高温は感染を助長するので、例年発病の見られるところでは 30℃以上にならないよう温度管理に留意する。
- ウ. 育苗期間中の過度な高温多湿は発病を助長するので、25℃以上の高温にならないよう適正な温度管理を行うとともに、過湿にならないよう水管理を適切に行う。
- エ. 発病が見られた育苗箱の苗は適切に処分する。

II 園芸作物

1. りんご

(1) 腐らん病

腐らん病菌の感染を予防するため、雪害による枝折れ等の折損部はきれいに切り落とし、切断面に塗布剤を処理する。

(2) モニリア病

例年発生が見られる園では、発芽2週間後～開花直前までに薬剤防除を行う。

病 害 虫 名	予 報 内 容
	発 生 量
(3) 黒星病	やや多い

1) 予報の根拠

- ア. 前年の発生量はやや多かった。(+)
イ. 向こう1か月の降水量は、平年並か多いと予報されている。(+)

2) 防除上注意すべき事項

- ア. 発芽10日後に必ず薬剤防除を行う。
イ. 開花期前後は重要な防除時期にあたるので、開花直前、落花直後の2回、E B I 剤を必ず散布する。なお、散布間隔が2週間以上あかないようにする。

## 2. もも

病 害 虫 名	予 報 内 容	
	発 生 量	
(1) <b>せん孔細菌病</b>	<b>やや多い</b>	

### 1) 予報の根拠

- ア. 前年の発生量は平年並であった。
- イ. 向こう1か月の降水量は、平年並か多いと予報されている。(＋)

### 2) 防除上注意すべき事項

- ア. 風当たりの強い園では防風ネット等を設置する。
- イ. 前年発生が多かった園では、開花前までの薬剤防除を必ず実施する。

## 3. 日本なし

病 害 虫 名	予 報 内 容	
	発 生 量	
(1) 黒星病	平年並	

### 1) 予報の根拠

- ア. 前年の発生量は平年並であった。
- イ. りん片の発病調査において、発病芽は確認されなかった(平年：0.3%)。(－)
- ウ. 向こう1か月の降水量は、平年並か多いと予報されている。(＋)

### 2) 防除上注意すべき事項

- ア. 園内をよく見回り、発病部位(花そう)は見つけしだい摘除し、適切に処分する。
- イ. 開花期前後は重要な防除時期にあたるので、開花直前、落花直後の薬剤防除を徹底する。

## 4. おうとう

病 害 虫 名	予 報 内 容	
	発 生 時 期	発 生 量
(1) 灰星病	早 い	平年並

### 1) 予報の根拠

- ア. 県予察ほ場(寒河江市)における佐藤錦の発芽期は3月26日(平年：3月29日)とやや早く、その後も生育はさらに進んでいる。
- イ. 前年の熟果腐れの発生量は平年並であった。
- ウ. 向こう1か月の降水量は、平年並か多いと予報されている。(＋)

### 2) 防除上注意すべき事項

- ア. 開花期前後は重要な防除時期にあたるので、風船状開花1日前及び満開3日後に必ず薬剤防除を行う。
- イ. 前年のもぎ残しによる樹上のミイラ果、果梗からの発生が懸念されるのもぎ残しが多かった園地は防除を徹底する。

## 5. 果樹共通害虫

病 害 虫 名	対 象 作 物 名	予 報 内 容
		発 生 量
(1) ナミハダニ	りんご・もも ・なし・おうとう	平年並

### 1) 予報の根拠

ア. 県予察ほ場（りんご）におけるナミハダニ越冬後雌成虫の下草寄生率は 0.0%（平年：4.0%）と低かった。（－）

イ. 4月上旬の巡回調査（りんご）におけるナミハダニ越冬後雌成虫の下草寄生確認地点率は 36.4%（平年：23.4%）とやや高く、下草寄生率も 5.0%（平年：2.4%）とやや高かった。（＋）

ウ. 向こう 1 か月の気温は高く、降水量は平年並か多いと予報されている。

### 2) 防除上注意すべき事項

下草におけるナミハダニの増殖を抑制するため、樹幹下（幹の周り 30cm 程度）は清耕管理を行う。

### (2) ハマキムシ類（りんご・なし・おうとう）

前年被害の見られた園では、果樹の生育に合わせて適期に防除を実施する。なお、訪花昆虫を保護するため、薬剤の選定に留意する。

## [発生予察情報で使用される時期、量の表現の基準]

### 1. 時期

平 年 並	平年値（過去 10 か年の平均）を中心として前後 2 日以内
やや早い	平年値より 3～5 日早い
ややおそい	平年値より 3～5 日おそい
早 い	平年値より 6 日以上早い
お そ い	平年値より 6 日以上おそい

### 2. 量（発生量、発生面積および被害量等）

過去 10 年間の値を、発生が多い順に下図のように並べ、本年の値との比較により求めます。

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
←多い→	← やや多い →	← 平 年 並 →				← やや少ない →		←少ない→	

## 東北地方 1か月予報

(4月7日から5月6日までの天候見通し)

平成30年4月5日  
仙台管区气象台 発表

### <予想される向こう1か月の天候>

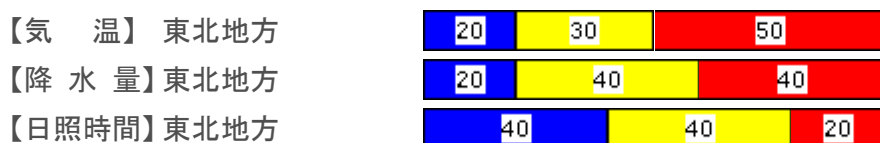
向こう1か月の出現の可能性が最も大きい天候と、特徴のある気温、降水量等の確率は以下のとおりです。

天気は数日の周期で変わりますが、平年に比べ晴れの日が少ないでしょう。

向こう1か月の平均気温は、高い確率50%です。降水量は、平年並または多い確率ともに40%です。日照時間は、平年並または少ない確率ともに40%です。

週別の気温は、1週目は、平年並の確率50%です。2週目は、平年並の確率50%です。3～4週目は、高い確率50%です。

### <向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)>



凡例: 低い(少ない) 平年並 高い(多い)

### <気温経過の各階級の確率(%)>



凡例: 低い 平年並 高い

### <予報の対象期間>

- 1か月 : 4月 7日(土)～ 5月 6日(日)
- 1週目 : 4月 7日(土)～ 4月13日(金)
- 2週目 : 4月14日(土)～ 4月20日(金)
- 3～4週目 : 4月21日(土)～ 5月 4日(金)